

■ 学校の共通目標

授業づくり	重 点	ねらいが明確な授業、ノート指導の徹底と I C T機器の活用。	中間 評価		最終 評価	
環境づくり		落ち着いた環境整備と学習・生活規律の徹底。				

■ 学年の取組み内容

学年	教科	学習状況の分析（10 月）	課 題（10 月）	改善のための取組み（10 月）	最終評価（2 月）	
1	国語					
	算数					
学年	教科	学習状況の分析（4 月）	課 題（4 月）	改善のための取組み（4 月）	中間評価・追加する取組み（10 月）➡	最終評価（2 月）
2	国語	学 平仮名、片仮名、漢字の読みは、概ね習得している。 書きについては、まだ誤字が多く、また文脈に合わせて文章中で漢字を使うことに課題がある。	・文章中に誤字や送り仮名や主語の脱字がないようにすることが必要である。 ・漢字や片仮名を正確に使って文章を書く力を伸ばす。	・漢字の書き取りや、観察カードなどを添削しながら回数を重ねて練習して、正しい表現を身に付けていく。 ・感想や気付いたことを書く機会を積極的に作り、数多く文を書くことで表現の力を養う。		
	算数	学 加法や減法の計算については全ての児童が習得している。 繰り上がりや繰り下がりのある加減法の計算に苦手意識を感じている児童が見られる。 文章問題において、自分の計算方法や考えを図や絵で表現する力には、個人差がある。	・繰り上がりや繰り下がりの計算の誤答を減らすことが必要である。 ・文章問題では問われている事を正しく理解し、考えを表すことができるようにすることが必要である。	・授業の中で問題を多く解かせるとともに、正しい手順で丁寧に解いていくように習慣づける。 ・問われていることをその都度確認しながら立式する練習を授業に取り入れていく。		
3	国語	調 平均正答率は区とほとんど同じ値であった。 調 領域別では「書くこと」に課題が見られた。 学 工夫して音読したり、新出漢字の練習に進んで取り組んだりするなど、学習への意欲は高い。しかし、既習の漢字の定着に課題も見られる。	・書く力が弱く、文章を構成したり、自分の考えを文章に表したりすることが苦手である。 ・漢字の定着が必要である。	・国語の授業で登場人物の気持ちや、日常生活のことを作文に書かせることで文章として表現する力を養う。 ・新出漢字では、授業で取り組みそれに加えて家庭学習で練習することで定着を図るとともに、既習した漢字については、文章の中でも的確に使えるよう指導をしていく。		
	算数	調 全体的には、平均正答率は区より少し上回っていた。 しかし、数式の意味を言葉で表現することが、あまりできていなかった。 学 九九の習得が不十分であり、立式ができて計算に苦労することがある。また、自分の考えをノートにまとめることにも課題がある。	・式の意味を考えたり、自分の考えを図や式に表したりすることに課題がある。 ・確実な計算力をつけることが必要である。	・授業で立式の意味について考えさせたり、数直線やテープ図を用いて表現する方法を教えたりして、自分の考え方を表現させる。 ・計算ドリルに繰り返し取り組ませたり、東京ベーシック・ドリルを活用したりして、基礎・基本を定着させる。		
4	国語	調 「話す・聞く」「読む」では、目標値よりもやや上回っていた。しかし、「書く」領域では、目標値を下回っていた。文字数や段落の指定がある問題に誤答が多いという課題が見つかった。 学 全体として新出漢字を意欲的に学ぶが、既習漢字の定着には課題も見られる。	・文章を構成したり、自分の考えを文章に表したりすることが的確にできるようになることが必要である。 ・既習漢字の定着が必要である。	・週 1 回の作文活動を行い、文章構成能力の向上を図る。また、書く学習において、学習感想を書かせるなどの作文活動を多く取り入れていく。 ・前年度までの漢字の復習を行ったり、新出漢字について書き順や使い方を詳しく抑え、定期的な漢字テストを行ったりすることで、漢字の定着を図る。		
	算数	調 基礎力は定着してきている。しかし、活用力は、標準スコアよりも下回る結果であった。 学 領域によって前学年までの既習内容の定着が弱い。	・問題を的確に把握することやかけ算の筆算やあまりのあるわり算が確実にできるようになることが必要である。	・問題文をよく読ませ、求めることを確認させる。また、答えにたどり着くまでの考え方を必ずノートに記述させる。 ・単元ごとに児童の習熟度を確認し、前学年の内容を取り入れながら授業を展開する。問題演習や単元末テストでつまづきを早期に発見し、個別指導を行う。		

5	国語	調 区学力定着度調査の結果は、標準スコアを下回った。課題は、作文の標準スコアが下回ったことである。自分の考えを文章にする力を付けていくことや文章を書く機会を増やし、文章の読み合いをする中で優れた文章を共有させるようにする。 学 既習漢字の定着には課題も見られる。 学 読書への意欲があり、落ち着いて取り組む児童が多い	- 文章の中から、必要な情報を読み取ることに課題がある。 - 問われていることに正対した表現をすることや、書く目的や相手を意識した書く力を伸ばす。 - 既習漢字の定着が必要である。	- 文章を分解し、文の核として表現されていること、文が問うていることなどをつかむことを繰り返す。 「はじめ」「なか」「おわり」を明確にしたり、自分の考えを必ず入れさせたりするなど、日常的に取り組ませる。 - 条件に合わせた言葉選びを意識させる。 - 新出漢字や既習漢字の復習、読書活動の推進、丁寧なノート指導を繰り返し行う。文章の中で適切な漢字を使う機会をもつ。		
	算数	調 ・区学力定着度調査の結果は、標準スコアを下回った。大きな要因は、図形領域の正答率が、目標値を下回ったことにある。デジタル教材を用いて視覚でとらえやすくする工夫をしたり、図形の実物に触れての個別指導を取り入れたりして視覚的、体験的に理解できるようにする指導をしていく。 学 領域によって前学年までの既習内容の定着が弱い。 学 発言意欲があり、考えの根拠を話すことも身に付いている児童が多い。	全体の正答率から考えるとやや個人差が見られるので、習熟度に応じた指導が必要である。	- 習熟度別指導で工夫して指導する。自分の考えを表現し、交流し合う学習を習熟度に応じて行う。 - 東京ベーシック・ドリル等を用い、繰り返し問題に取り組み、基礎・基本の確実な定着を目指す。		
6	国語	調 区の学力定着度調査では、区の平均を少し上回った。活用力よりも基礎の学習の定着が弱い。 学 書くことに抵抗がある児童がいる。また、どう書き表せばよいのか、悩んでいる様子も見られる。	文型などの言葉の学習の誤答、作文においては、無回答が多い。正しい漢字を書くこと、与えられた条件を正しく理解して書けるようになることが必要である。	- 文型のプリントを定期的に家庭学習に出し、個別指導を行う。 - 週に2回程度、家庭学習で作文を出し、色々な書き方に慣れさせる。授業の中での書く場面では、習った漢字を書くように助言する。		
	算数	調 区の学力定着度調査では、区の平均を少し上回った。計算や図形の問題での正答率が低い。 学 学習内容の理解、習熟について個人差が大きい。苦手な領域になると意欲が低下しがちである。	小数の計算ミスをなくすことが必要。図形では、同じ図形を選び出すときに、細かいところまで確認しないで解く習慣をつける。	- 図形を描く学習では、丁寧に一つ一つ指導していく。自分の考えをまとめる時間をしっかりととり、筋道を立てて考えられるようにする。 - 東京ベーシック・ドリル等を用いて復習をする。授業の中では、ICT 機器を活用し、既習を活かして自分の考えを発表できるようにする。		
音楽		学意欲的に学習に取り組んでいる。音楽の諸要素と関連づけて自分の感じたことや気付いたことを伝えることに課題がある。 - 歌唱では、のびのびと歌える児童が多い。中学年以上では、歌声を聴き合って二部合唱することに課題がある。 - 器楽では学年があがるにつれ技能面の個人差が二極化する傾向にある。	- リズムと拍の違いや音程や音の長さといった音楽の諸要素について理解することが必要である。 - 意識的に声をそろえる、友達と合わせることができるようになることが必要である。	- 音楽の諸要素を掲示し、常に意識して見られるようにする。 - 発声練習を導入で取り入れ、響く歌声を意識できるようにするとともに、合わせて歌うようにする。		
図工		学造形活動に興味を持ち、楽しく意欲的に活動に取り組んでいる。 - 道具や材料の扱い方についての経験や技能に差がある。 - 材料や道具に触れ、ものづくりを楽しむが、つくりながら発想を広げることが難しいことがある。	- 制作の苦手意識をなくすことが必要である。 - 手順通りにつくるだけでなく、いろいろ試したり、工夫したりして、よりよいものにしようと追究する力を培っていく必要がある。	- 基本的な道具や材料を扱う作品を作る経験を多く積ませる。 - 制作途中で他の作品や他の児童のアイディアを紹介する。 - 材料や用具を自分の表現に合わせて「選ぶ・試す」時間を確保するなど学習過程に工夫をこらす。		
特支		学 学習に意欲的に取り組んでいる児童が多い一方、指先の細かい操作や、情報を処理する力に課題がある。 また、集中して人の話を聞くことや、自分から行動に移す力が育っていない。グループでの話し合い活動も苦手にしている。	- 指先の細かい操作や力のコントロールをすることが難しい。 - 教師や友達が話している時に、思いついたことをすぐに口に出したりせず、他の人の意見を聞いてから、自分の主張を述べるができるようになることが必要である。	- 発達段階に応じた教材を用い、楽しみながら手や指を使うようトレーニングをする。 - 授業中の話の聞き方や発言のルール「はい。(立つ) ～です。」などを全校共通の指導とする。また、月1回の「聞く聞くドリル」を全学年で実施。聞く力を高める指導を行う。 1対1で相手の話を聞く（ペアトーク）活動の中で聞く態度や相づちの打ち方の指導を行う。		

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況

※分量は2ページ以上となってもよい。